教育委員会会議録

令和7年（2025年）4月定例教育委員会会議

開 会 日	令和7年（2025年）4月24日（木）	
開 会 時 間	午後2時00分 ～午後5時50分	
開 会 場 所	SPring熊本花畑町 7階 D会議室 ※一部オンライン開催 オンラインでの出席者については各執務室	
出 席 者	委 員 会	遠藤洋路 教育長 西山忠男 委員 苦野一徳 委員 村田楨 委員
	事 務 局	福田衣都子 教育次長 梶原勢矢 教育次長 中川浩二 教育総務部長 吉田潔 学校教育部長 他
提 出 議 案	議第28号 熊本市立学校部活動支援基金条例の制定について 議第29号 和解の成立について 議第30号 熊本市立総合ビジネス専門学校条例の一部改正について 議第31号 熊本市特別支援学校等教科用図書選定委員会委員の委嘱等について	
協 議	(1) 熊本市学校給食施設整備基本構想（素案）について	
報 告	(1) 令和7年第1回定例市議会報告について (2) 令和6年度熊本市学力調査の結果について (3) 熊本市立学校教員採用選考試験の実施について	
自 由 討 議	PTAのあり方の現状と課題について	
署 名	西山 忠男	
	苦野 一徳	
会議録作成者	教育政策課 甲斐 まゆみ	

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>令和7年4月定例教育委員会会議を開会いたします。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日は、私のほか3人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。 会議規則第14条第2項の規定に基づき、会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、西山委員と苫野委員とします。よろしく願いいたします。</p>
<p>〔公開の審議〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日の会議の内容につきましては、会議日程のとおりですが、通知しておりました案件のうち、協議(1)熊本市学校給食施設整備基本構想(素案)については、取り下げしております。 また、本日の議事のうち、議第28号 熊本市立学校部活動支援基金条例の制定について、及び、議第30号 熊本市立総合ビジネス専門学校条例の一部改正については、会議規則第13条第2号「教育予算その他議会の議決を経るべき議案についての意見の申出に関する案件」に該当すること、議第29号 和解の成立については、会議規則第13条第3号「訴訟、調停、和解及び不服申立てに関する案件」に該当すること、議第31号 熊本市特別支援学校等教科用図書選定委員会委員の委嘱等については、委員の氏名を公開することにより、率直な意見の交換又は意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあることから、会議規則第13条第4号「その他の案件」の非公開事由に該当し、非公開の審議が適当と思います。 議第28号から議第31号につきまして、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。 (全員挙手) 全員賛成により、議第28号から議第31号は、非公開とします。</p>
<p>日程第1 前回会議録承認</p>	

遠藤洋路 教育長

それでは、「日程第1 前回会議録等承認の件」に入ります。
3月27日開催の令和7年3月定例教育委員会会議録を各委員のお手元に配布しております。この会議録を承認することに、ご異議はありませんか。

(異議なしの声)

異議なしと認めます。前回会議録は、承認することに決定いたします。

日程第2 事務局報告の件

・(1) 事業・行事等報告について

遠藤洋路 教育長

今日は自由討議がありますが、出席者の日程の都合により午後5時から開催したいと思いますので、もし5時の前に進行が進むようであれば非公開の案件を先にやった後に自由討議をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

日程第5 報告

・報告(1) 令和7年第1回定例市議会報告について

《資料事前配布》

西山忠男 委員

11ページだったかと思いますが、この8年間の教育長の成果と課題について伺いたいという質問がありまして、回答が書かれています。一つ重要なことが抜けているというふうに思いました。それは、この8年間の間に平成さくら支援学校とあおば支援学校が開設されたという非常に重要な進展がございました。これは本市並びに教育長の大きな成果だと思いますが、これが抜けているのはどうしてでしょうか。教育長の認識をお尋ねいたしたいと思います。

遠藤洋路 教育長

平成さくら支援学校は、私が来るときに開校しましたので、私の任期中というよりは、その前の成果かと思いますが、あおば支援学校については、確におっしゃるように私の任期中に開校しました。すみません、その認識が抜けておりました。申し訳あり

	<p>ません。学校の開校というのは、この質問はどちらかといえば教育長になってからの成果ということで、教育がどう変わったかという点がメインだったと思いますので、その辺、私がやった成果というよりは、あおば支援学校はどちらかといえばその前から計画があって進めてきていたものですから、そこら辺が私の成果というような形ではあまり認識をしておりますでした。おっしゃるように、この期間中ということであれば、平成さくら支援学校が開校したこと、あおば支援学校が開校したことというのは非常に熊本市の教育にとっても大きいことだというふうに思っています。</p>
西山忠男 委員	<p>確かに教育長がちょっと遠慮されて、ご自分の成果という形ではお話しにならなかったんだと思いますけど、本市の教育の成果としては非常に重要な進展だったと思いますので、市議会等でははっきりしていただきたいなと思ったところがございます。</p> <p>それから、関連してよろしいでしょうか。全体的に特別支援教育についての質問は少なかったんですけど、14ページですか、インクルーシブ教育について質問がございまして、県知事の発言についての見解をただす必要があるというような意味合いでしたが、このインクルーシブ教育について、この教育委員会でもいろいろ議論はしてきましたけど、なかなか進んでいないという現状がありますので、人の配置が必要なのでなかなかすぐにはできないかもしれないけど、モデル校のようなところで始めてはどうかという意見交換はしたと思いますので、今後ぜひまた検討していただければと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>これについては現状を担当課から説明していただいてもいいですか。</p>
竹内賢二 特別支援教育室長	<p>インクルーシブ教育の推進については、今、教育大綱に基づいて、第3次の特別支援教育推進計画の策定に向けて取り組んでおります。その中にもインクルーシブ教育の推進という項目を挙げております。先ほど西山委員からご指摘いただいたモデル校についても検討して、少しずつでも進めていく方向で今取組を進めている段階です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>具体化できるように進めていきたいと思っておりますので。</p>

西山忠男 委員	ここでの質問の内容は、医療的ケアが必要なお子さんに対するインクルーシブ教育という趣旨のようですが、そういったお子さんに限らず、一般の特別支援の様々なお子さんがいらっしゃるもので、そういう方々を含めてインクルーシブ教育の多様な在り方というのをぜひ考えていかなければいけないと思っていますので、よろしく願いいたします。
竹内賢二 特別支援教育室長	本室だけではなくて、関係する局内の各課とも連携しながら、そこはどんな取組ができるかというところでまた連携を深めていきたいと思っております。また、既にインクルーシブ教育については各学校向けに全職員向けの研修動画も作成して、本年度、既に配信しておりますので、小中学校、高校も含めて全ての先生方にそういった理解、啓発あたりも進めていっているところでございます。
遠藤洋路 教育長	西山委員、よろしいですか。 では、ほかにご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。
苦野一徳 委員	今教えていただいた動画は我々も見られますか。
竹内賢二 特別支援教育室長	現在のところ、学校向けにはチラシのほうを配付して、そこからQRコードで見られるようにしております。あと、この間局内のほうでも職員が見られるようにできないかということで、そちらは進めておりますけど、まだ一般の方向けには準備はできておりません。必要に応じて、もしご視聴の希望があれば、調整を考えていきたいと思っております。
遠藤洋路 教育長	教育委員さんには配ったらいんじゃないですか。よろしく願いします。
竹内賢二 特別支援教育室長	分かりました。
西山忠男 委員	この中で学校給食の無償化についていろいろ書いてありますが、学校給食の無償化については国の施策でも進めようとしていて、2026年度から小学校から無償化を進めるというふうな方針が自民党とその他野党と合意に至っているということですが、本市で進める無償化と国が進める無償化との関係はどうなるのでしょうか。

草野陽介 健康教育課長

第1回定例会で市長から独自の無償化を検討するということが表明されましたが、具体の検討は、これから全庁横断的なプロジェクトチームをつかって検討するということになっております。国のほうでも、今、文科省、それから政党レベルでいろんな検討がなされているかと思いますが、これから骨太の方針でありますとか令和8年度の政府予算案の具体的になっていく中で、国の方針ということが見えてくると思いますので、そういった国の方針も見極めていきながら、具体的に熊本市としてどう対応するのかといったことについて今後検討していきたいと思っております。

西山忠男 委員

国の流れとしては無償化のほうに進んでいると思うんですね。そうした場合、財源は国が持ってくれるのか、それとも地方自治体で持つということになるのか、その辺が気になっているわけなんです。ですから、熊本市が独自にやるというときはもちろん熊本市が財源を準備しなければいけないんですけど、国がやってくれるときには、熊本市は財源を準備しなくていいのかどうか、そのあたりをちょっとお伺いしたいんですが。

草野陽介 健康教育課長

この給食費の無償化については、今先行してやっている自治体が幾つかありますが、地方の財政力の差でサービスの格差があってはならないということで、指定都市市長会なども通じて国に対して全国一律の財政措置を求めているところであります。そうした動きはあった上で、本市として独自の給食費の無償化ということですが、これを実施するには大きな財源が必要になります。小中学校を完全に無償化した場合には35億円ということで今試算しておりますが、それを財政的にも安定的に実施していくために、全庁横断的なプロジェクトチームの中において事業見直しといったことをしていこうと思っております。そのほか、様々な工夫も凝らしながら、財源面でも安定的にやっていけるように、プロジェクトチームの中で具体的な検討を行っていきたいと思っております。

遠藤洋路 教育長

国が無償化しますということですから、当然国もお金を出すわけですけど、国が出す分が100%なのか50%なのか何%なのかというのはまだ決まっていないということですね。これから決まりますので、当然国の動きも見ながら、熊本市はどのぐらい財

西山忠男 委員

源を独自に出す必要があるのかというのを今まさに検討しているという状況です。

関連して、財源の話で気になっていることを申し上げますと、この中でも、体育館にエアコンをつける、つけないという議論があって、体育館にエアコンをつけることは、災害等の避難場所として利用するときには不可欠だという認識はあると思うんですけど、なかなかやっぱりお金がかかる話なんですよね。だから、そういったお金のかかる話がいっぱいあって、さっきのインクルーシブ教育においても、教員の人材配置をするのにやっぱりお金がかかるわけですね。そのあたりの優先順位というのはどこで調整して、どういうふうに考えているんでしょうか。これは中川さんに聞いたほうがいいんでしょうか。

中川浩二 教育総務部長

委員ご指摘の件につきましては、先ほど給食の無償化、それからエアコンの整備等につきまして、やはり大きな財源が伴うものがございます。ましてや、今インクルーシブ教育のお話もございましたけど、インクルーシブ教育を推進するに当たっても必要な財政出動というものは当然に出てまいります。それで、全庁的にも限られた予算の中でどのように優先順位をつけていくのかという部分については、当然、局内でもしっかり議論しながら、また、教育委員の皆様方にもご意見をいただきながら進めてまいりたいというところでございます。

遠藤洋路 教育長

いずれも教育委員会だけではなくて、関係局もありますので、市役所全体で方策を考えていくというテーマだと思っています。

村田槇 委員

12ページの上の教職員を保護者などや子どもからの暴言や暴力から守るための教職員を守る相談窓口というところに関連すると思うんですけど、今年度、教育委員会の関係課と小中学校の校長会で教職員を守るプロジェクトチームを設けているというふうに回答されているのを読んだんですが、その学校の誰にも相談しづらいという場合があると思うんですね。校長先生、教頭先生にも伝えづらい。伝えたことで、その後、仕事がしづらくなるんじゃないかとか、何か言われるんじゃないかとか、そういう不安で仕事がしづらくなってしまおうという方もいるんじゃないかなと思うので、そういう先生方が安心して相談できる環境というのが必要だなというふうに思いますし、体罰等審議会というのは

遠藤洋路 教育長

ありますけど、もちろん認定することはとても必要なことで大事なことだと、自分も身を置いておりましたので、そこは重々分かっているんですけど、事実でないことで名前が挙がった先生というのは、そこから先はずっと、挙がったということがきっと心のご負担になると思うんです。保護者とか子どもたちとかのイメージとか、今後すごくやりづらくなったりとか、そういうことにとでもつながると思うので、そういう先生方のケアというのも必要なんじゃないかなというのを、ここを読みながら思ったところです。感想です。

コメント必要ですか。大丈夫ですか。分かりました。

西山忠男 委員

2ページで、教員等の人材確保の方策についてという議論がなされていますけど、文科省は教員の人材確保の方策の一つとして、教員採用試験の前倒しということを言ってきて、本市も少し前倒ししたわけですが、文科省はさらなる前倒しを言っていますが、それに応じた自治体は僅か5つか6つだったということがされていて、本市も昨年と同様の日程で、それ以上の前倒しはしていないようでございますが、この点についてはどのようにお考えなのか、上村教職員課長にお願いします。

上村清敬 教職員課長

おっしゃるとおり、今年度、5月11日に前倒すよう文科省のほうからは推奨されておったところです。まず、熊本は九州のブロック単位で、統一日でこれまで動いてきた経緯がございますので、九州内で昨年度協議して、前倒すべきか、そのままにするべきか検討した結果、昨年度の実施結果からも、前倒しの効果はあまりなかったというふうに感じておるところでした。ただ、長崎県さんだけが今年度5月に前倒すことになったんですけど、それ以外につきましては、問題作成の負担等がございますので、まずは7月から6月に前倒した段階で検証した中では効果が見られなかったため、今年度も6月でそのままにすることとしたところです。また来年度以降につきましては九州単位で考えていくことになるかと考えております。

苦野一徳 委員

24ページの人事評価の点に関してなんですけど、質問でタブレットの活用が人事評価の項目として掲げられていると聞いたが本当かということに関して、能力評価にそのような項目はないが、業績評価は校長が掲げる学校目標に基づき各教職員が目標を

	<p>設定するものなので、そこにタブレットの活用を設定されることはあり得るとするのは、各教職員が自らこの活用を設定するという、そういう理解でよいのかどうかを一つお聞きしたいのと、あと、この人事評価がどういう影響を本市の場合は先生方に与えるのかを少し具体的に詳しく知りたいなと思ひまして、つまり昇給であったりボーナスであったり配置に関してであったり、こういった形でこれが活用されており、またその意義といたしますか効果といたしますか、そういったものはどのようにお考えかということも、すみません、結局質問内容3つになってしまいましたが、お聞かせいただければと思います。</p>
上村清敬 教職員課長	<p>まず、業績評価を設定するのは教職員になります。仮に学校目標においてICTをいかに活用して授業づくりを行うかというふうな学校として掲げられた中で、教職員がそれを具体化するに当たってはタブレットを活用するというような目標を掲げることにはあり得るといふことですので、そこは学校の先生方のご判断ということになります。</p> <p>次に、この能力評価、業績評価が何に使用されるかということですが、我々の場合は、市の職員はこれがボーナスにも影響するところですけど、教職員にはそういったものはございません。ただ、管理職試験に当たって、能力評価を一定の点数化して盛り込んでおります。</p>
苦野一徳 委員	<p>すみません、あともう一つ、その効果ですね。効果や意義をどのようにお考えかということもお願いできますでしょうか。</p>
上村清敬 教職員課長	<p>効果につきまして、ご自分で評価して、その後、一次評価、二次評価、教頭、校長とつけられるものです。この評価につきましては、当人にそれをもって説明することを義務づけておりますので、自分の評価と上司の評価で、今後それをどう見直し、改善していくかということ、毎年度それを繰り返しながら、それぞれの先生方が自分を磨き上げられていくという効果があるかと考えております。</p>
苦野一徳 委員	<p>ありがとうございます。ちなみにこれは相対評価ではないと理解していいでしょうか。</p>
上村清敬 教職員課長	<p>絶対評価だったと認識しています。</p>

苦野一徳 委員

ありがとうございます。

遠藤洋路 教育長

よろしいでしょうか。何か苦野委員、危惧されることがあるんですか。

苦野一徳 委員

いろいろと研究がありまして、人事評価を給料と結びつけたりとか、同僚性を奪うような形で相対評価して競争させてしまったりすると、実は先生方が子どもたちを見るというよりは、上の評価を気にするようになって、実はとても教育的には問題があるんじゃないかというようなことがアメリカだったり日本であったり結構研究がありまして、本市はどうなっているのかなというのを確認したいなと思った次第です。

遠藤洋路 教育長

分かりました。ありがとうございます。

では、ほかにありますか。よろしいでしょうか。

では、ほかになれば本件は以上といたします。

・報告(2) 令和6年度熊本市学力調査の結果について

《楳木敏之 指導課長 報告》

西山忠男 委員

英語についてお伺いしたいんですけど、この結果では分かりませんが、ALTを活用していることの効果というのがどのように現れているのか、それは分かるでしょうか。

楳木敏之 指導課長

ALTに関しては、現在、57名のALTがおりますけど、現状としましては、小学校の全授業時数の3分の2、中学校の4分の1で活用しているところです。子どもたちの英語に関する興味関心というようなところは、ALTが参加した授業のときは、まずALTの会話的発言などのそういうふうな本場の言葉に触れるという機会に興味を持っていますし、また、それだけではなく、ALTのこれまでの背景となるいろんな母国の文化とか、そういう多様な文化を伝えるというところでも子どもたちにとっては非常に興味があっているところです。というふうに聞いております。具体的に全市を統一して何か数値が上がったかとかというこ

とはないんですけど、熊本市の取組としては、各学校でスピーキングテストなどを、複数のALTが1か所の学校に時期をずらしながら集まって、一人一人にスピーキングテストをやっていくと。テストというんですけど、そこで会話の練習と会話のトレーニングみたいな、そういうふうな会話の学習という一環で、一人一人会話する機会を意図的につくっていますので、そういうのも非常に子どもたちの中では、スピーキングテストの前に自分の日本語を英語に直して、そしてALTの前で自分で実際英語で話すことに挑戦すると。そういうものもありますので、それはもう一定期間ずっと続けてきているところで、学校としては非常にいい活動だということでは聞いています。

西山忠男 委員

ALTの活用方法なんですけど、ALTの人はいろんなバックグラウンドがあるわけで、もちろん母国で教員の免許を持っている人もいるでしょうけど、持っていない人もいるでしょうね。そういったALTを活用した効果的な英語の授業づくりというのを市として考えているのかどうかというのがちょっと気になるんですよね。現場に任せてやっていると、ALTの個性次第でいろんな授業になる。それはそれでいいかもしれないけど、やっぱりもうちょっと有効な活用法というのを考えて、そういった研修といいますか授業づくりというのを議論して考えていったほうがいいんじゃないかなという気がするんですけど、その点はいかがでしょう。

榎木敏之 指導課長

西山委員のご指摘を受けて、改めて研修をもう一度見直して、質の高い活用になるように検討していきたいと思います。現在もALT同士での学びというものもつくっております、ALTとしての経験があるALTが、初めて来たALTと一緒にどんなふうな授業をしていくかと。それから、もし少し任される時間があれば、どちらかというとその学校の英語の教員との連携のほうが非常に重要ですので、英語を担当している教員とどうやっていくかと。中学校の場合は平均すると4回のうち1回がALTが入る授業となりますので、残りの3時間どうそこが連携していくかというところが必要になってきますので、教育センターのほうの英語の指導力向上の研修も併せて一緒に検討していきたいです。

西山忠男 委員

今まで教育委員会として、我々は全くその辺タッチしていなか

遠藤洋路 教育長

ったので、できれば広聴事業の一環として、ALTを活用した授業の現場を見たり、英語教員とALTを集めた場で意見交換をしたりとか、そういうことも考えたらいいかなというふうに思いました。

分かりました。昔、ALTはどんな感じですかと聞いて、教室に来てラジカセのスイッチを押すだけですよと言った人がいましたけど。熊本市ではないですけどね。今はそんなことはないんでしょうけどね。授業を見に行っても、やっぱり子どもたちはよくしゃべっていますもんね。だから、私が印象的だったのは、ALTが小学生にキャン・ユー・スピーク・イングリッシュと聞いたら、小学生がイエスと言っていて、あ、英語しゃべれると思っっているんだ、今の小学生はと。その後に校長室で校長先生にキャン・ユー・スピーク・イングリッシュと聞いたら、ア・リトル・ビットとか。私たちも、キャン・ユー・スピーク・イングリッシュと聞かれて、イエス・アイ・キャンとなかなか言わなくないですか。と思うけど、今の小学生はやっぱりイエスなんだなと思って、そこがすごく小学校の英語の効果があるんだろうなとそのときに思いましたけどね。それは、またでも実際教育委員の皆さんにも見に行っていて、感じていただくというのは大事だと思いますので、そういう機会が設定できればと思います。

ほかにありますでしょうか。ご意見、ご質問。

私から聞きたいと思うんですが、学力調査の結果を、こうでしたよというのはここに出ていますけど、どう評価しているのかということは、指導課としてはどうなんでしょうか。

榎木敏之 指導課長

熊本市全体の平均というのを出すとこのような形になっておりますけど、基本的には各学校での自分たちの学校の子どもたちの実態を把握して、授業改善などに生かしてほしいということで進めているところです。各学校では自分の学校の強みと弱みの部分をしっかり整理して、今後どのような取組をやっていくか、分析結果で学校の強みと弱みはどこだったかというのを、昨年度末までに指導課のほうに提出して、新年度の教育課程の教育計画の中に位置づけて取り組んでもらうということをしています。その中で、子どもたちが各自取り組むところはドリルパークであったり、そのような学び直しの機会を設定してもらっています。市整体的には、やっぱり小学校5年生の算数が、算数の中でも毎年どの学年を見ても、小学校5年生の算数が全国平均と比べて熊本市

が低いという状況がありますので、それは熊本市の実態として、割合とか変化と対応みたいな内容のところを苦手とする子がやはり多いんだと思います。そういうところに向けては、市の学力向上支援員というのを小学校5年生の算数には予算を取って配置しておりますので、全ての学校ではありませんけど、数校配置したところでは、数値を見ると確実に上がっているところです。昨年度、数校見たときには、確実にほぼ全ての学校が、やっぱり支援員が入ると上がると。だから、それだけしっかり丁寧な支援をしていけば、子どもたちの力はやっぱりついていきますので、そういうところも生かしながら、支援員が来ない学校も、どの教科のどの単元が一番子どもたちが苦手としているのかとか、どの単元は割と子どもたちが得意なのか。やっぱり苦手なところに少し時間をかけてゆっくり進んで、いろんな対話とか学び合いの時間を多く取ってやる。得意なところは、どっちかという、本当は時間をかけたいところなんですけど、全体の枠が同じですので、得意なところは少し短めにやるというような、それぞれの学校で強みと弱みを生かしながら、どこが課題かというのを重点的に取り組んでほしいというようなことで進めているところです。計画は立てても、なかなかそういうところまでちょっと忙しくてできないという学校もありますので、そういうところを我々もちょっとしっかり、途中過程も、進捗状況を見ながら支援していきたいと思っておりますので、状況は、どちらかという熊本市全体の平均というより各学校での分析、それから計画に生かしていくということが一番重要ではないかと思っております。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。教科の結果は、それぞれ学校ごとで当然違う部分もあるでしょうし、今言ってくださったと思いますが、アンケートのほうですね。主体的に学習に取り組む態度というのは、これは熊本市の学力調査もそうですし、全国学力調査でもそうなんですけど、熊本市の結果は全国平均よりも低い傾向がありますよね。ここはどうなのでしょうね。

榎木敏之 指導課長

この部分は、調査のたびに熊本市がなかなか上がってこないところで、非常に授業改善、それからいろんな校則見直し、いろんなところで主体的な活動をつくろうと努力しているところで、恐らく何か一つの教科でやったとかということだけでは、全体的な数値が上がっていかないと考えています。学習と、それからふだんの生活と学校の中で、行事を含めているような生活の中も、やっ

ぱり子どもたちが主体的にいろんなことを選択したり、自分たちで取り組むというような場面を、簡単な掃除とか、そういうところからいろいろ子どもたちが自分たちで選択し、自分たちがやりたい方法を選んでいくというような場面を増やしながらかやっていくことが一番重要ではないか。今のところ簡単に数字が上がってはいきませんので、そういうことを考えています。

一方で、授業に関しては、子どもたちに直接質問紙で聞かれたときに、主体的に学んでいるという子が非常に少ないという現状は、学校訪問で去年3分の1ぐらいの学校を見たときに、割と主体的に学んでいるなというところもたくさんあったんですけど、子どもたちに質問すると、主体的に学ぶというのが一体どんな状態なのか分かっていないということもあるかもしれませんので、完全な状態にはならなくても、前よりも主体的に活動できたねとか、やっぱり日々の価値づけをやりながら、生活の中で今度は自分たちでやってみようかとか、そういうふうな、終わった後に価値づけたり、これは主体的に今回は学べたよみたいな、そういうふうなメッセージを届けていくというの、子どもたちの中でもっと主体的にやろうとか、そういうことにつながるのではないかなと思っていますので、指導課だけではなく、いろんな課と連携しながらそういう場面をたくさんつくっていくということで進めていけたらと考えているところです。

遠藤洋路 教育長

教科書採択のときにも話したことがあるかもしれませんが、今最後に指導課長が言ったように、実態として主体的に学べていないんじゃないかと、それを自覚していないとか意識していないということもやっぱりあるような気がして、やっぱり先生が事あるごとにそういうことを子どもたちに言っていく、自覚してもらうということだけでも大分違うんじゃないかなと。今やっていることがどういう意味があるんだということを言ってあげて意識づけるというのは大事なんじゃないかなというふうに思います。全国と比べて、そんなにみんなが受け身で学習しているとはあまり思えないなと思います。

それから、例えば質問のアンケートの最後から2番目ですかね。算数・数学というところで、新しい問題を解くときに、これまでに習ったことをどうやって使えば解けそうか考えるようにしているという質問項目で、これは主体的に学習に取り組む態度というアンケートとなっているんですけど、新しい問題を解くときに、これまでに習ったことを使って考えるというのは当たり前

榎木敏之 指導課長

というか、それ以外にありますか。解きようがないですか。

この質問紙がテストとセットで入っていますので、主体的に学ぶ学習の態度という項目の中にこれはあるんですけど、教育長おっしゃるとおり、これはどちらかというと数学的な見方、考え方の部分で、そういうふうな思考でいろんな課題を解決していくときに使う基本的な考え方ですので、受け身的な学習をしている子でも、テストの点数が取れる子はそういう思考をしているわけで、これが主体的に取り組む部分をちゃんとほめるための質問かと言われると、そもそもちょっと違うかもしれません。当然、主体的に学んでいる子は、こういう見方、考え方を習得しているから、相関があるので高い結果には多分なるんだとは思いますが、このあたりは教育長おっしゃるとおり、まさにこれは、学習を積み重ねていく基本的なスキルで、各教科、ほかの教科にとってもやっぱり既習事項を基に次の学習に進むということですので、同じかなという気はしています。そういう部分と併せて、やっぱりスクタンのほうで、これまでなかなか取れなかった主体的な学びの部分を補う形でできたらなと考えておるところです。

遠藤洋路 教育長

新しい問題を解くときに、これまで習ったことを使って考える。これにノーと答える人はどうやって考えているのかなと思いますけど。新しい問題を解くのを諦めているのか、このアンケート項目を読んでいないのか、どちらかですよ、多分。だから、主体性よりも読解力というか、ちゃんとこの文章が読めているかということのような気もするんですよ。ここに書いてある意味が分かって、自分がやっていることの意味が分かれば、ほぼ100%イエスになると思うんですよ。どんな子でも。新しい問題を解いたことがない人はいないでしょうし、これまで使ったこと以外のことを使って問題を解く人もいないんでしょうから。だから、ちゃんと問題文を読んでいるのかという読解のところは何となく、この質問紙調査とかをいつも見ていると、もしかすると全体的に低い傾向があるんだとすると、そこも向上すれば結果も上がるのかもしれないというふうに思うこともありますけどね。

榎木敏之 指導課長

そのあたりも、アンケートに答える回答時間をゆっくり取ってあげるとか、そういうこともちょっと必要かもしれません。小学校1、2年生だと担任の先生が読み上げてくれて、答えて、また読み上げてくれてと、全然読まないという子はいないんですけ

ど、小学校3年生以上になると自分の力で読んで回答していくというようなことになりますので、5分間でアンケートをしたみたいな、そういう学校はないと思うんですけど、すごく短時間でしたりするようなことがあるなら、そういう飛ばし読みとか、後半はあまり読まないみたいなこともあるかもしれませんが、このアンケート結果も子どもたちの実態を把握する一つのツールとしてはとても大事なものだということで、しっかり時間を取ってほしいというようなことも指導課のほうから、実施するときには学校のほうに留意事項ということで伝えていきたいと思います。

遠藤洋路 教育長

分かりました。よろしくお願いします。

西山忠男 委員

今の問題は私も教育長と全く同じ感想を持っていたので。やっぱり新しい問題を解くときに、これまで習ったことをどうやって使えば解けそうか考えるようにしている。これに対してノーと答えた子は、全くお手上げだと。この問題は解けないという意味だと私は理解しました。だから、中学校でイエスと答えた人の割合が落ちているのは、やっぱり中学校で数学が苦手だという生徒が増えているんだと思うんですね。読解力の問題だったら、小学校と中学校でこんな差は出ないんじゃないかという気がしますので。だから、ここから見えてくることは、やっぱり中学校に入って数学ができなくなった子どもたちをどう指導すればいいのかと。そこに工夫が必要だということではないかと思います。ですから、先生は新しい問題が出てきたときに、これは、これまで習ってきたこと、こことここと関係があるんだよ、こういったことを組み合わせて解くことを考えてごらん下さいというふうな指導をやっぱりするべきじゃないかな。お手上げの子は、どうしたらいいか全く手がかりがないんです。自分の頭の中に手がかりがない。多分それは、これまで習ったことをきちんと理解していないから。だから、既習事項の復習から入らないと新しい問題は解けないということなんです。そういうことを先生たちが意識して対応してくれたらいいかなと思います。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、ほかになれば本件は以上といたします。

・報告(3)熊本市立学校教員採用選考試験の実施について

《上村清敬 教職員課長 報告》

西山忠男 委員

募集人員は退職者との関連で決まると思うんですけど、今年は中学校が87名と、去年に比べて非常に少なくなっていますよね。受験する側からしたら、やっぱりこの変動はできるだけ小さいほうがいいんですよ。一定数募集があるというほうが準備はしやすいわけで、特に大学の教育学部なんかはそうだと思うんですけど、来年は募集が極端に少ないとか募集がないとかということになったら、非常に困るんですよ。ですから、できればこの辺は募集人員ができるだけ平準化するように計画していただけないかなというのが私の気持ちなんですけど、いかがでしょうか。

上村清敬 教職員課長

おっしゃるとおりございまして、近年、大量退職に伴いまして大量採用を行って、また、これまで多かった臨時的任用教職員の割合を低下させるためにも正規教員を積極的に採用しておったところです。今申し上げましたように、またご指摘もありましたように、定年退職に伴う者の波に合わせまして正規教員の採用も行っているところがありますので、どうしてもちょっと年度によりまして波があることは否めないところでありますけど、大学側からも、今西山委員からおっしゃられたようなご指摘は重々受けておるところでありますし、志願される学生側にとっては、それは望ましいことではありませんので、極力、これ以上少なくならないように、教科によってあまりにも少なくならないような基準で一定程度は採り続けていきたいと考えておるところです。

西山忠男 委員

もう一つ気になるのは、やっぱり特別支援教育なんですけど、小学校の2022年は5人しか採用がなかったのに、今年は29人も採ろうとしているんですよ。それだけの人材がいるのか、質のいい特別支援教育の教諭になり得る人材がいるのかという問題が出てきますよね。中学校で見ても、やっぱり22年は5人だったのに、18人なんですよ。こんなに急に増えると、もちろん大学側も対応できないだろうし、採らざるを得なくなると、質は当然落ちるだろうしということがあるんですよ。だから、そ

遠藤洋路 教育長

ういうことまでやっぱり考えないといけないんじゃないかなというのが感想です。難しいと思いますけど。

今の点はコメントはよろしいですか。

上村清敬 教職員課長

特別支援教育につきましては、単純に特別支援学級が激増しておりまして、ニーズが高まっております。特別支援学級における特別支援の免許をお持ちの先生方の割合もどんどん低下しておりますのでございまして、昨年度の追加募集の際にも実施したところですが、学生さんが今持っていないくとも、採用されてから2年以内に認定講習を受けて免許を取ることも条件といたしまして、この特別支援教育推進枠にも志願者を増やそうと考えておるところでございまして、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

遠藤洋路 教育長

ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。
ほかになれば、本件は以上といたします。

【非公開の審議】

日程第3 議事

- ・議第28号 熊本市立学校部活動支援基金条例の制定について

《朽木 篤 教育改革推進課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第29号 和解の成立について

《榎木敏之 指導課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第30号 熊本市立総合ビジネス専門学校条例の一部改正について

《榎木 敏之 指導課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第31号 熊本市特別支援学校等教科用図書選定委員会委員の委嘱等について

《竹内賢二 特別支援教育室長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

〔公開の審議〕

日程第6 自由討議

- ・テーマ「PTAのあり方の現状と課題について」

《宮本義久 地域教育推進課長 説明》

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

改めまして、こんにちは。熊本市PTA協議会の副会長をさせてもらっている原田と申します。単位PTAとしては出水南中学校というところで活動させていただいております。

今回、このようなPTAの在り方ということでお話する機会をいただき、ありがとうございます。補足としてということなんですけど、表のほうを見ていただいたとおり、なかなかやっぱり任意加入というところがどうしても全面的に出てきて、しなくていいならしなくていいんじゃないかという、とてもやっぱり希薄な状況というのが正しいかと思います。その中、我々としては、やっぱりPTA活動というのはふるさとづくりなんだということを大きく提言しまして、やっぱり親の都合で住んでいるこの地域に対して、子どもに対してちゃんとしたふるさとをつくらないといけないんじゃないかということで、保護者同士で今結束を固めていっている最中です。そのために、やはり地域活動の一つとしてPTA活動の一つぐらい参加して、一緒にコミュニケーションを取って、誰々ちゃんのお父さん、誰々ちゃんのお母さん同士が話し合うことがまず第一歩なんじゃないか。地域づくりの第一歩というふうな意味合いで、少しずつ取組をさせていただいております。

出水南中学校、先ほどの絵で紹介していただいた部分に関しましても、PTAはペアレンツ・アンド・ティーチャーですので、校長先生とPTA会長が共に保護者から事前に出された悩みに対する回答をユーチューブ上で答えるというふうな取組をさせていただくということで、特にその部分は保護者と距離をどんどん学校側は近づけていく必要があるんじゃないかというふうな思いでさせていただきました。その結果なんですけど、今熊本市全体としてはPTA会員数が減っているという状況なんですけど、出水南中に関しては、昨年度、1学期から2学期の間に入っていなかったPTAの保護者さんが9世帯、入れてくださいということで増えているというふうな事例もございますので、やり方一つ、我々の目的をしっかりと伝えていくことで増えていく部分もあるんじゃないかなというふうに私は思って活動させていただいております。

以上、ちょっと補足というか、私の思いという部分で発言させていただきました。お願いいたします。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございました。

では、討議に入ります。時間の目安は30分ほどということで、よろしくお願いいたします。

西山忠男 委員

この討議を提案した一人として、どういう意識で提案させていただいたかをご説明したいと思うんですけど、女性の社会進出が進んで、専業主婦の方が減ったということが、PTA活動にとって非常にやりにくい要因の一つになっているんじゃないかというふうに感じます。私も30年ぐらい前にPTAの広報委員長として何年か活動した経験がございますけど、やはり昼間の職を持っているとなかなか参加しづらいという面は否めないですね。ですから、当時から共働き世帯でも加入しやすいPTAの在り方というのはないのかなというのをずっと思っていたわけなんです。それで、どんどん社会も変化してきて、今は一体皆さんどうやってPTA活動を継続しているんだろうと思って、ニュース等の報道を見ますと、全国的に見るとPTA活動は衰退しているという状況もあるようですので、熊本市ではその辺はどうやっているのかなというふうに思ったというのが今回のご提案の趣旨だったわけです。

その観点から、出水南中ではどういうふうにして皆さんの参加を促進しておられるのか。そういう共働き世帯はどうしているの

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

かと。そのあたりをちょっとお尋ねしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

西山委員、ありがとうございます。

おっしゃるとおり、我々の世代ではやはりもう女性が働くというところは当たり前の状況になっておりますので、どうしてもやはり集まりづらいというのは必ずあります。でも、今の時代、やはりコロナ禍の中でZoomというものが大分普及してきました、こどもを寝かしつけた後とか、30分、1時間で、カメラもオフにできますので、奥様方がお風呂に入った後でも、画面出さなくていいよ、発言だけしてちょうだいねということで、かなりZoomでの話合いは増えていますということと、あとコミュニケーションツール、我々はLINEを使っているんですけど、グループLINEを活用して、集まらずともちゃんと我々の向かっている方向を伝え合うということは、我々の中では特に多くやらせていただいていますし、あともう一つあるのは、ある程度まとめ込むというふうな、丸め込むというとおかしいですけど、体育大会が午前中で終わった後に会議をしましょうとか、出てきたついでに一緒にやりましょうねということであれば、どうせ出てくるんだから、そこ30分ぐらいちょっと顔を合わせてお話ししましょうよというような工夫は多少やらせていただいているのかなと。なかなかやっぱり有休の数も限られているので、先もって計画も立てさせてもらいながら、その工夫はやっぱりちょっと、今のSNSを使いながらやらせていただいているというのが実情かなと思います。

西山忠男 委員

PTAの普通の委員長とか委員クラスだとそれで十分だと思うんですけど、やっぱり会長とか副会長職を引き受ける方はなかなか大変だと思うんですよ。そのあたりはどうなさっているのか、率直なところをお伺いしたいんですけど。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

会長も副会長も、大変と言われれば、責任がもちろん伴いますので大変かと思えますけど、やはり時間というところに関しては、先ほどみたいに少しずつ絞りながらやらせていただいているんですけど、これは我々の学校でいくと、やはり会長、副会長が一番得てほしいという言い方をさせていただいて、やっぱり気持ちの持ちようだろうなと。負担を負担と思うか思わないかだろうというところで。だから、時間を使うことは絞ればいいで

西山忠男 委員

すし、やはりこれはきついなと思うことは、別に負担と思わない
思い方をすればいいんじゃないかということで、やっぱり一番最初
に校長先生と教頭先生のお話が。一番近い距離でいるのが会
長、副会長だよねというお話をさせていただいたら、やはりそれ
で、えこひいきをしてもらおうというわけじゃなくて、一番最初に
情報が入って、一番最初に子どもたちに発信ができるのは会長、
副会長ですよ。それがやっぱり一番得しているんじゃないの
というふうな、ちょっと考え方を改めて向かわせていただくと、
結構前向きに。私の昨年度やらせていただいた内容としては、得
したなというふうなお話だったので、ちょっと考え方を改めてみ
て向き合っているというのが今実情です。

ありがとうございました。

せっかくお見えになっておられるので、後ろにお座りのお方に
もぜひ感想といたしますか、ご意見といたしますか、伺いたいと思
うんですけど、どういうお気持ちでPTAに参加しておられるの
か。負担感とか、家事の両立とか仕事の両立とか、そのあたりは
どうされているのか。忌憚のないところをお聞かせ願えないでし
ょうか。よろしく申し上げます。

高梨沙織 熊本市PTA
協議会事務局長

お世話になります。熊本市PTA協議会事務局の高梨と申し
ます。今日はよろしくお願いたします。

私、現役を離れて2年目となりましたけど、現役時代、約10
年、会長、副会長に携わってきましたが、確かに子どもも小学生
のときから役員をしていたので、大変と言われれば大変だったか
もしれないんですけど、私が学校に行くことによって、子どもは
ちらちら見ながら喜んでいたんですよ。私も学校の様子が見ら
れる。運動場で子どもたちが遊んでいる様子を見て、すごく幸せ
な気持ちになれるとか、原田副会長の言葉ではないですが、得し
たことは本当にたくさんありました。家事との両立といたします
と、小学校の頃は、心に決めていたのが、絶対に家事に手を抜か
ないということで、確かに夜に出ることも多かったんですが、こ
どもに負担をかけないということで、ご飯は絶対につくっていく
とか、心に決めてやったところはあります。おかげで、地域の方
ともたくさん知り合いができて、子どもたちも地域に顔が売れ
て、我が家は本当に得をしていると思っています。

村田植 委員

教育委員の村田です。本日はお忙しいところありがとうござ

い。

先ほど、やり方とか伝え方というお話をされていて、伝え方という部分はとても大事じゃないかなと思っているんですけど、いまだに小学校、中学校、いずれにしても、入学式の直後に入会式という形であるんですよね。説明が。でも、暗黙の絶対加入なのかなという不安からスタートするわけですよね。なおかつ、さらに任意加入のはずのPTA共済にも全員参加、全員払ってくださいというところがいまだにある。そういう説明がないまま、例えばそこが、今みたいなすごくすてきな活動をされているとかそういうものが全く見えていない状態で、入学した途端に、基本的には全員参加してもらっていますのでと言われたところで、不信感からしか始まらないんですよね。どれだけのことを、どういう熱意で子どもたちのためにされているのか、学校のためにされているのかというのを、もっと伝え方というところが。各学校だと思うんですけど、PTAの伝え方というところに少し課題があるんじゃないかなというふうに。自分は役員を長年やっておりましたので、ひしひしと感じていたところではあります。

というのと、共済のお話もありましたけど、この中に学校行事の支援という資料もあったんですけど、学校行事の支援というのが金銭面での支援になっているところがあるんですよね。学校行事、例えば運動会とか音楽会とか合唱コンクールとか、そういう学校行事のためにかかる費用をPTAの会費で負担されているという学校がある。その会費の使い方とかに課題があるんじゃないかなと。実際に会費から学校行事の費用が払われているので、それに納得がいけないという保護者さんもいらっしゃいますし、実際、それで学校行事に参加しなかったという保護者さんもいらっしゃるので、お金の使い道とか、あるいは個人情報の取扱いとか、ちょっとそういうところで、やり方一つで、もう少し保護者の信頼とか理解を得られる部分がたくさんあるのに、ちょっともったいないなというふうに常々思っていたところでありました。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

ありがとうございます。

おっしゃるとおり、そういう学校もやはり我々としては、全部のことがそういうふうなところではないとは思いますが、おっしゃるとおり、そういうところもあるんだろうなというふうなところで思っています。ちなみに出水南中学校に関しては、新入生保護者説明会のときに行かせていただいて、全ての活動をご紹介させていただいた上で、任意加入なんです。でも、皆さんで

楽しんでコミュニケーションを取っていきましょうということで、一応入学式を迎えていただくような。事前にはちょっとお伝えさせていただく部分があったりとか、もちろんお金の部分とかも、やはり今日本PTAの問題等々もありますし、やはりお金の内容というところもしっかり伝えていく部分は必要だなというところ。個人情報に関しては、教頭先生等々で、ちゃんと開示されますか、というところで入学式後にお聞きはさせていただいているところですけど、各学校が全て足並みがそろっているかというところ、そこはちょっと私のほうでも分かりかねるので、今、PTA協議会に入っている全校の代表者に、こういう部分があるよというのは周知しようというふうに思っています。貴重なご意見ありがとうございます。改善させていただきます。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。確かに活動の紹介とか制度の説明とかは最初にあったほうが安心はしますし、どうしようという方もそれで分かるところはあるかもしれませんね。

村田槇 委員

大体2月とかにあるんですね。新入生保護者説明会の部分で、自分も説明の場に立っていた側でもありますので、経験はあるんですけど、ただ、そのときって、上のお子さんが既に小学校にいたことがあるとかという保護者さんじゃない限りは、全く頭に入っていないんです。まず、学校がどんなところかとか、小学校とか中学校、今までと全く違う生活に入る前の、どういう生活が待っているんだろうという不安の中で説明会を受けるので、正直PTAの説明というのはあまり記憶しないんですね。その中で、入学式の直後にやっぱりもう入会式。やっぱりこれって入るものなのという流れになってしまうので。もちろん、その後に入会する、しないとか、活動に賛同する、しないというのを確認するプリントとかが配られたりはしますが、入学式直後という、あれはなかなか強烈な行事になっているので、やっぱりその直後に、何でもまだ自分たちの意思も聞いていないのに入会式なんですとかいうふうに何人も聞かれたこともありますし、そういうところから不安や不信感というのを与えないためにも、やっぱりぜひ、せっかくの活動をいろいろ宣伝というか周知していくという形は、もっといろいろあったらいいんじゃないのかなと思ったのと、会長、副会長の負担についてもありましたけど、やっぱり成り手がなかなかいない。自分も成り手がなかなかなくて、無理してやっていたところもありまして。でも、同じ人たちがやることにど

うしてもなってしまうと、そうすると周りは、あの人たち、やりたいからやっているんでしょうとなる。だったら、やりたい人にやらせとけばいいじゃないとなってしまうので、ますます成り手がなくなるので、やっぱりその人たちがどれだけ生き生きと子どもたちが輝くための活動をしているのかというのを、もっと見せる場があったらいいのになというの思っていたところです。

遠藤洋路 教育長

これはそれぞれ違うんでしょうけど、入会式というのは何をやるんですかね。その式で。

村田槇 委員

入学式が終わった直後に、PTAが、一応任意参加ですという説明をしてくださるところもあるんですけど、自分が経験してきた学校では、基本的に皆さんご協力いただいていますという感じで、やっぱり同調圧力と取られても仕方ないような説明で、これからよろしく願いますという感じの空気なんですよね。いつの間に入ったんだっけという感じでは確かにあるんです。その中で、さっきも申し上げましたけど、入る、入らないをまず決めていない段階で、共済は全員支払いをお願いしますという説明を受けて、えっと思った経験もあったので。共済は任意のはずですよ

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

もちろんそうですね。

村田槇 委員

そこで、何でそこだけ全員参加というふうに決まっているのかなとか、やっぱりちょっと、そもそも入会式って何ぞやみたいなのところからのスタートになるので、そこで、でもみんなが入っているなら入ったほうがいいのかと思って入る方がほとんどだと思うんです。でも、そうすると、やっぱり大事な、何のために活動しているのかとか、どういう人たちがやる気を持ってやっているのかとか、そういうのは見えないままのスタートになるので、ちょっとしたところから不信感が生じたりとかということにつながるんじゃないかなというふうに思います。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。さっき村田委員がおっしゃったように、まず学校が初めてで、学校がどんなところなんだろうというときに、PTAのことまで、頭がいっぱいで分からないというのも確かに、それはそうかもしれないなと思いましたけど。

苦野一徳 委員

今日はどうもありがとうございます。実は私も副会長をかつてやっておりました。くしくもみんな関係があったなと思ったんですけど。

幾つかご質問させていただきたいなと思って、まず、それぞれの単Pで特色はあると思うんですけど、さっきお話にあったような、ある種魅力化していきたいなとか、あと、この指とまれでというか、やらされPTAというよりは、やりたい人が生き生きとやっていけるようなとか、こういったことに力を入れているPTAがどれくらいあるのかというのをまずお聞かせいただけますでしょうか。何となくの感覚でも構わないんですが。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

ありがとうございます。力を入れているというところに関しては、大なり小なり、もちろん今ちょっと熊本市から抜けられているところの学校の会長さんとお話しさせていただく機会がこの前あったんですけど、その際に言われていたのは、やっぱり、できたしこはできたしこなんだけど、やらなくていいという諦めの境地が強かった方はやはり抜けられたんだろうなと僕の中では思っていて、どれだけ力を入れているかという、今残っている129校あるんですが、そこを大なり小なり何かしようと思って、やっぱり残っていただいているんだろうなというふうに私は思っています。

苦野一徳 委員

ありがとうございます。市全体でそういった動きを活性化しようみたいな、そういう方向性もあるんでしょうか。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

そうですね。我々としても、やはり先ほどから申されるように成り手がいないということが大きく問題化しているのはあるので、我々、今、中学校単位、出水南中学校であれば田迎南小学校、画図小学校、出水南小学校、その単位の役員たちで4校協議会というのをまず開かせていただいて、それぞれがそれぞれ取りあえず一旦手伝い合いながら乗り越えていこうというふうな取組を、ちょうど今僕中央区なんですけど、中央区の中でも、ちゃんとその中でリーダーを決めながら、単位PTAだけじゃなくて、それを乗り越えてみんなで、中央区は中央区の中学校区、中央区でまとまっていこうという取組は今始めさせていただいて、一個だけ例を挙げさせていただくと、白山小学校がどんどやをしたいと。しかし、運動場の脇に線路が通っているものだから、どうしてもできないんだと。では、どうしたものかといったら、その

中学校区の砂取小学校があって、砂取小学校でどんどやと一緒に白山小は行って、じゃ、白山小は、私たちは餅つきができるから、砂取小学校で餅つきさせてくださいねというようなモデルケースをつくっていきながら、小学校同士で何かのイベントと一緒にやれば、人数もそこまでかけなくても、子どもたちが楽しい姿を見て、PTAの方々が楽しくそれをやっていたら、また保護者たちも、あ、PTAって楽しくやっているんだねと思えるようになるんじゃないというあれで、取りあえず前へ前へ向いていこうというふうな意味合いでは、ちょっと今努めさせていただいているというのが現状です。

苦野一徳 委員

ありがとうございます。本当にすてきなエネルギーに満ちた方向性を感じさせていただいて、本当にすてきだなと思いました。私、先ほどおっしゃったふるさとづくりという言い方がすごくいいなと思って、やっぱり熊本地震とかを思い返したときに、PTA活動、ここにもちょっと防災のことが書いてありましたが、最強の防災対策だと思うんですね、PTAって。このあたり、ある意味、そういった意識の広め方というのも大事な気がいたしますね。私は全然不十分にしか活動できなかったのですごく悔いているんですけど、そういった発想をやっぱり熊本地震で強くしたところがあって、どうなんでしょう。そういった発想のPTA活動ってどれくらいありますか。あまり私そういう印象で最初やっていなかったもので、どんなものでしょうか。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

ありがとうございます。確かに防災という面に関しては、我々も10年前になるとまだ子どもが未就学だったので、そのときは、もちろん僕はPTA1年生ぐらいだったのでぎりぎり携わってはいるんですが、やはり知らないメンバーが多いというのはもちろんありまして。でも、その中で、昨年度、全国の政令市大会があったときに、尾ノ上校区は、熊本地震を経験した上で自分たちが防災士の免許を取り、防災クラブを行っておられるという話を全国の前で、お話をさせていただきました。どちらかというやはり防災に対する意識は強く。我々も年に1回、市P研究大会のテーマにもやはり防災のテーマがあります。やはりそういう部分に関しては他県に比べれば強いイメージがあるというのは私の思いです。

遠藤洋路 教育長

さっきのお話を伺いながら思ったんですけど、PTAというの

	<p>は必ず学校単位でつくらないといけないんですかね。これからこどもの数も減って、児童生徒も減りますよね。学校も小さくなってくるわけで、そんなに有意義な活動をしているならば、例えば、今PTAなくなっちゃいました、こっちはあります、こっちはないですということであれば、何か隣の学校と一緒に合同で組織をつくるとか、そういうのも。もし任意団体なんだったら別に駄目というわけじゃないかなと思ったんですけどね。何かそういう事例とかはあるんですか。</p>
原田英之 熊本市PTA協議会副会長	<p>ないんですね。ないので、先ほど言ったような形で少し乗り越えながら、お互いがお互い協議会を、ちょっと今4校協議会、6校協議会、何校協議会という呼びかけをして、もちろん大分前からできているところもあるんですが、やっぱりそういうところで、それをまとめてPTAにしようという動きは、まだ今のところは。そういう動きはあるかもしれませんが。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>熊本市内という意味ではなくて、ほかの全国的にそういう話は聞いたことは特にはないですか。</p>
原田英之 熊本市PTA協議会副会長	<p>特にはないですね。もちろん違うPTAみたいな組織をつくられているというのをお聞きしたことがあるんですが、実際にそれをPTA活動としてしているというの、ちょっと聞いたことがないです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。ありがとうございます。 もう一点私から伺いたいなと思ったのは、先ほどおっしゃった原田副会長の出水南だと、資料にありますけど、校長とかPTA会長がSNSでいろいろ悩み相談を発信しているとか、これは何か、もうちょっと具体的に言うとどんなことを発信されているのかなと。その効果というか成果というか、その辺を伺いたいなと思ったんですけど、いかがでしょうか。</p>
原田英之 熊本市PTA協議会副会長	<p>ありがとうございます。もともと私が出水南中学校の田中校長先生に依頼をしたのは、まず我々保護者が校長先生を知ることが一番だろうということで、我々、学校内で教養講演会を田中先生にお願いしたんですね。田中慎一郎とはこういう男で、こういうことができる人ですという講演をお願いしたときに、事前に質問を、今どういう不安がありますかとか、今どういうふうな心境で</p>

すかという不安とか質問を寄せていただいたら、45件ぐらい質問が来たんですよ。その後、講演が終わった後もやっぱり20件ぐらい質問が来て、手に負えなくなったというか、皆さんやっぱりそれぞれ思いがあるんだなというのに気づいて、それで、田中校長先生とどうしましょうかと。その場でもう僕がたんかを切って、分かりました、ユーチューブで回答するので、皆さん見てくださいというふうなところが発端で、結果、やはりそれをしたことによって皆さんが意見を言いやすくなったというか、皆さんが話をしやすくなった。ねえねえ、会長、ちょっとこんながあるんだけど、今度ユーチューブで上げてくれないというところでやってもらったり、一番最初に取り上げたのは不登校の件で多分上げたと思うんですけど、そういうのとかも、やはりみんな心の中で思っていることはあるんだけど、発信する場がないというところで、そこがやっぱり我々PTAの役割でもあるんだろうなと。保護者同士がというところが、とても我々としてはよかったなというふうに。コミュニケーションが取れた、言えるようになったという結果は伴ったかと思っています。

遠藤洋路 教育長

お話を伺うと、校長の役割というか、そういうのが非常に大きいところがあったのかなと思うんですが、そうすると、PTAの側からして、校長とか、あるいは学校、教育委員会に何か求めるものとか期待することというのはどんなことがありますか。

原田英之 熊本市PTA協議会副会長

ありがとうございます。やはりPTA、ペアレンツ・アンド・ティーチャーですから、先生はもともとPTA会員であるというのは大前提で思っていたきたいなというふうに思うので。保護者って縦軸で、生まれたときからずっと子どもはどんどん育っていつているんですけど、小学校、中学校区は横軸で、この先生方はある程度ずっと先生でいていただけるんだけど、我々はそのうち卒業、そこを9年したら卒業してしまうというところになっていったときに、やはり我々保護者はいつかOBになる。いつか手が離れてしまうような状況になるときに、でも、先生方というのはやっぱり何十年と先生でいていただけるので、その中で、やはり変わらずPTAというものへの理解と応援をしていただきたいなという。こちらは今していただけていないわけじゃないんですけど、今回こういう場をつくっていただいたのでとてもありがたいんですが、PTAというものはやはり必要なんだということを先生方も皆さん思っていたいただけるようなものであると、私も心

遠藤洋路 教育長

穏やかにPTAを卒業できるなというふうに思っている次第です。

ありがとうございます。
委員の皆さんからありますか。

西山忠男 委員

私がPTA活動をしていたときに感じていたことは、PTA活動というのは結局、学校行事のお手伝いじゃないかという感じがすごくしていたんですね。校長先生が絶対で、校長先生を中心に学校がやることを支援すると。これがPTAの目的だというふうに感じていたんですけど、実際には、事務局が用意してくれた文書にありますように、文科省がPTAの目的を、教育の質の向上というのをまず挙げているんですね。でも、私が経験したPTA活動はそこには一切寄与していなかったんですね。今ご説明あったユーチューブでいろんな質問に答えて、不登校の問題なんかも回答した。それは非常に素晴らしい。そういう意味で教育の質の向上に寄与していると思います。やっぱりPTA活動というのは単なる学校のお手伝い、校長の下請機関じゃないと思うんですね。そこを何とかしていかないと、やっぱり盛り上がらないんじゃないか。例えば、私が経験した息子の中学時代の学級崩壊の事件があったときに、対応したのはやっぱりそのクラスの保護者だけで、保護者と教職員が対応した。PTAとして対応したわけじゃなかったんですね。そういう学校の大きな問題が起こったときに、やっぱりPTAとして対応できるような状況でないと、やっぱりうまくいかないんじゃないかと。結局、モンスターペアレントと呼ばれる人が出てくることになってしまうんじゃないかというのが私に感じていることで。それは非常に大きな問題なので、ここで議論してもしょうがないかもしれないんですけど、やっぱりPTAというのはもっと教育の質の向上、学校が抱える教育の課題というところに関与していかないといけないんじゃないかなというふうに思っているところです。

遠藤洋路 教育長

この自由討議が大体いつも30分目安とかと言いながら、30分では全く終わらないんですけど、今日はPTAの皆さん、外部の皆さんに、教育委員会の中じゃない方に来ていただいているので、あまり長引かせるのもいけないなと思いますので、時間を守りたいと思います。大体30分ぐらい。ほかの委員の皆さんから、あるいはPTAの皆さんから何か発言があれば。

村田 慎 委員

もちろん、今日せっかく来ていただいたお二人の前でこんなことを言うのも大変失礼なのかと思うんですけど、PTAが必要なものというお立場で参加していただいている反面、そう思っていない方々もいるわけで、そう思っていない、思うことのできない方々、保護者にとっても、その方のお子さんの9年間がきちんと等しく明るいものであるようにという、保護者も安心して9年間楽しく過ごしてもらえ環境であるということを切に願っております。ありがとうございました。

原田 英之 熊本市PTA協議会副会長

貴重な機会をいただきありがとうございました。我々も日々PTAというものが、やはりこれだけ思いながらも、本当に悩むことも多々あります。でも、先ほど学級崩壊のお話もいただきましたけど、やはり我々としては、保護者は横同士なので、もし何かそういうことをやろうとしている子がいる、我々保護者は横同士なので、おたくの息子ちょっと大丈夫というのは嫌じゃないんだけど、先生にそう言われたら物すごく反論するんですよ、保護者って。だから、それがモンスターペアレンツの、僕はなりわいだと思っているので、我々がいかに保護者とつながっていくか。それで、そういうふうな問題をいかに解決できるか。可能性も我々PTAとしては秘めているとは思っているんで、やはりコミュニケーションを特にたくさん取れるようにできたらなというふうに思っています。

いろいろありがとうございます。PTA活動、また引き続き頑張っていきますので、またいろいろ皆様のご教示いただきながら、保護者として、もちろん子どもたちのために頑張ればと思っていますので、また引き続きよろしく願いいたします。貴重なお時間ありがとうございました。

遠藤 洋路 教育長

教育委員会も当然PTAも教育関係団体というか、ここにあるように教育の質の向上とか、目的は共有しているわけで、特に熊本市の教育委員会は教育エコシステムということで、教育に関係するいろんな団体、それから学校、民間の企業とか団体を含めてみんなで教育をつくっていこうという、そういうスタンスでやってきているわけなので、そういう中で一緒に協力しながら熊本の教育をつくっていくという、そういう立場だと思っていますので、ぜひ今後とも協力してよりよい熊本の教育のため、そして子どもたちのために頑張っていければと思っていますので、どう

令和7年(2025年)4月 教育委員会会議録【4月24日(木)】

<p>〔閉会〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>ぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p> <p>では、以上で本日の会議日程は全て終了いたしました。ほかにご発言ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。ほかにならないようでしたら、以上で令和7年4月定例教育委員会会議を閉会いたします。お疲れさまでした。</p>
--------------------------	--